

入 選

新しい時代と共に生きる水

土浦日本大学中等教育学校

三年 内 山 実 紅

二〇一九年五月一日に新しい天皇が即位された。大きな災害はあったものの戦争のなかった「平成」から「令和」という新しい時代に幕が開かれた。

私はその日、自宅から祖父のお墓がある下妻市へと向かうため国道二九四号線を走っていた。その時、母が

「随分あの災害から復興したわね。あそこのスーパーも屋上まで水で浸っていたのよね。」

と、言ったので私もそのときのことを思い出した。二〇一五年九月十五日、茨城県常総市で鬼怒川が決壊して常総市の住宅地に濁流が流れ込んだ。豪雨が襲い、鬼怒川決壊で死者二人、三〇〇〇戸以上が浸水した。私は今でもその当時のことを鮮明に覚えて

いる。鬼怒川の水がこんなにも恐しい水になってしまったことが信じられなかったし、「どうして？」という思いが募った。

私が住むつくばみらい市では、水道水での水源として、利根川・鬼怒川と地下水で、地下水は市内浄水場で浄化しており、川の水と地下水を混合して配水している。地下水の浄水場と川の浄水場には小学校のとき見学に行っており、川の大切さもそのとき知ったのである。そんな大切な川の水により、水害になってしまったのが私にはどうしても結びつかなかった。私の市でも鬼怒川が決壊し、避難した人も多くいた。身近な人でも家が浸水してしまい、私の母は片付けの手伝いに行った。

東日本大震災のとき、水は断水され、私は母につれられ、ペットボトルの水を買いに何軒も回り、水の大切さを知ったはずなのだ。その命とも言える水により、今度は苦しめられている人々が沢山いることに納得がいかなかった。どうしてなのか知らなくてはいけないと思い、調べてみることにした。

今回の鬼怒川流域の降水量は、二十四時間雨量五

四一ミリメートルを記録している。これまでの二十四時間最大雨量は二八九ミリメートルであったため、今回の雨量は想定を大きく超える、百年に一度の大雨だった。仮説によると、堤防の上の水が流れ、水流によって堤防上部より崩れたということだ。また、近年は林業が衰退しているため、荒れ山地が多く、多くの土砂が流れ込んでしまう。その土砂は川底にたまるので、年々川底は高くなってしまい、水が流れる面積が年々小さくなってきているのだ。それも大きな原因となっているようだ。沢山の雨量や地形変化は世界的な地球温暖化により起きているものだと考えられる。

水がないと私たちは生きていけない。命でもある水を守るためには堤防を高くするだけではなく、地球温暖化への一人一人の意識も考えていかななくてはいけないと感じた。

新天皇陛下は、水関連の活動を「時代に即した新しい公務」と位置づけ、海外で行われる国際会議にも参加されている。また、長年にわたり水問題の研究者として続けられている。新しい時代と共に二度

とこのような災害がないように、そして大切な水を守るため、私たちに与えられた大きな課題とも言えるだろう。地球温暖化を防ぐため、小さな私でもできることは、無駄な物は買わない。リサイクルできる物は繰り返し使い、ごみを減らす。何より命である水を大切に使うため、シャワーを流しっぱなしにしない、こんな小さいことから始めてみよう。